

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ピュアフレンズ		
○保護者評価実施期間	7年 4月 1日		7年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	7年 4月 1日		7年 4月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	7年 5月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援を重視しながらも、集団での活動や遊びを通してソーシャルスキルの向上を図っている。利用者様一人ひとりの特性に合わせた柔軟な支援が強み。	毎日の活動でチーム戦をするなど集団生活を意識した支援を実施している。	毎日行う活動が固定化されてきてしまったためSwichiを導入して今までにない角度からの支援を意識して取り組んでいく。
2	安全で清潔な環境整備に力を入れており、事故防止対策や衛生管理にも十分配慮している。保護者の皆様が安心してお子様を預けられる体制が整っているのが強み。	トイレに手すりの設置 小便器周り両側に必要に応じて使えるよう仮設の手すり設置。 下のフロアマットは転んでも痛くないよう柔らかい素材のフロアマットを常設。	下のフロアマットの清潔感を保つため業務後にはアルコール消毒を実施しているが今後は定期的に交換していく。
3	当事業所では、児童発達支援管理責任者をはじめ、強度行動障害研修修了者、保育士など専門性を持つスタッフが在籍しており、発達に課題のあるお子様に対して個別支援計画に基づいた質の高い療育を提供できるのが強み。	お子様一人ひとりにあった支援を実施するためにその日あった些細な出来事なども職員が気づきそれを全体で共有する時間を重要視し多くとっている。親御様にご安心していただくために職員全体が同じ方向向いて支援するよう取り組んでいる。	ご自宅送迎時により今日の出来事をお伝えするだけでなくデイで見れないご自宅での様子を共有してもらうことでより質の高い支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムのマンネリ化 中高生の児童に向けた活動プログラムの少なさ。 高学年児童の放課後の受け入れの難しさ。	過去の活動を流用してはなかなか新規の活動が出来ていない。 お子様にとって新しい感覚や新しい経験ができるようなアイデアが少ない。 高学年児童の平日の利用が難しく、定員割れをしている日がある。また、高学年に向けた活動の検討が必要。	職員間でマンネリ化や年齢に合わせた活動の少なさを重く捉え会議でもそこに多く時間を割き、課題解決に取り組んでいく。 子供がやりたいものを聞き可能な限り実現できるように工夫する。
2	職員の知識、専門性の向上のための研修機会の少なさ。	日々の業務と研修にかかる時間の調整が難しく、外部研修への参加などが難しい状態。 新規職員の就職などにより、改めて支援の基礎などを教えていく機会を作っていない。	隙間時間でも受講できる研修システムの導入。 職員会議での職員同士のディスカッションの機会を導入。 日々の振り返りでの情報共有と新規職員への指導の実施。
3	地域・学校との連携不足	現段階では、地域・学校との連携が十分とは言えず改善点があると捉えている。 学校での生活を知るためにも積極的に学校の先生に話を聞きに行く。	学校の先生と密にコミュニケーションをとることで学校側の支援の考え方と弊社としての考えをすり合わせることができより質の高い支援が学校・事業所・ご家庭で実践できる。